

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスもぐすた		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 20日 ～ 2025年 12月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	42人	(回答者数) 25人
○従業者評価実施期間	2025年 12月 22日 ～ 2026年 1月 9日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11人	(回答者数) 11人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 14日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの発達段階や特性に応じて、活動内容や職員配置を工夫し、安心して過ごせる支援を行っている。	・子どもの発達段階や特性を踏まえ、活動内容や関わり方、グループ分けを柔軟に調整している。 ・安心して過ごせるよう、必要に応じて個別対応や小集団での支援を行っている。 ・子どもの得意なことや興味関心を取り入れ、意欲的に参加できる活動を工夫している。	・支援内容を定期的に振り返り、より適切な支援方法を検討する。 ・子どもの変化や成長を職員間で共有し、支援の質の向上につなげる。 ・活動の幅を広げ、成功体験を積み重ねられる機会を増やす。
2	定期的な研修や会議を通して、職員の専門性向上と支援の質の向上に努めている。	・週1回の研修や毎日の会議を行い、支援に対する共通理解を深めている。 ・日々の支援を振り返り、職員同士で意見交換を行う機会を設けている。 ・子ども一人ひとりの支援方針について話し合い、統一した関わりを意識している。	・研修内容を実際の支援に活かせるよう、継続的な振り返りを行う。 ・職員それぞれの経験や得意分野を共有し、チームとしての支援力を高める。 ・支援の方向性を明確にし、職員間の連携強化につなげる。
3	子どもが安心して過ごせるよう、手作りの療育グッズや備品を活用し、温かみのある環境づくりを行っている。	・子どもが親しみやすく安心できるよう、手作りの療育グッズを活用している。 ・発達段階や目的に応じて、活動に合った備品を準備している。 ・落ち着いて過ごせる空間づくりを意識し、環境面の工夫を行っている。	・手作りグッズを使用している反面、目的が見えづらいものもあるため、目的が明確になるよう指示書等を活用する。 ・新しいアイデアを取り入れ、活動の質の向上を目指す。 ・子どもの反応を見ながら、療育グッズや環境設定の見直しを行う。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	やむを得ない事情による急な欠勤が発生することがあり、安定した勤務体制の確保が課題となっている。	・やむを得ない事情による急な欠勤が発生することがある。 ・やむを得ない欠勤により人員配置に余裕がなく、手厚い支援が難しい場面がある。 ・業務が特定の職員に偏りやすい。	・スポット職員の制度をうまく活用し、有資格者の確保に努める。 ・情報共有を徹底し、急な変更にも対応できる環境を整える。
2	職員間での情報共有や連携が十分に行き届かない場面がある。	・非常勤の職員は情報共有の時間が十分に確保できず、職員によって持っている情報に偏りがある。 ・引継ぎや共有の情報も多くあるため、職員全員への周知が難しい場合がある。	・短時間でも情報共有の場を直接設け、支援内容を確認する。 ・データベースのみでの管理だけではなく、紙面で情報を共有するなど、職員全員が情報を周知できるよう工夫する。
3	地域との交流や地域資源を活用した活動の機会が十分に確保できていない。	・時間の制約により、外部活動の計画が難しい。 ・地域のイベントについての情報が不足している。	・無理のない範囲で地域と関われる活動を検討する。 ・地域のイベントについての情報収集を行い、活用の可能性を探る。 ・事前準備や役割分担を明確にし、安全に配慮した活動を行う。